

# イカナゴ情報 No.2 (2024年6月)



道総研

令和6年6月25日

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類<sup>1)</sup>の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

## 漁獲物調査: 2024年6月前半は体長22cm以上が主体

6月前半の漁獲物標本を測定したところ、5月の調査船トロール調査による組成(イカナゴ情報No.1(2024年5月))とは異なり、2024年は体長22cm以上の大型個体が主体となっていました(図1)。近年は主に2015年と2018年に小型個体(20cm以下)として漁獲されたものが、成長しながら各年で漁獲されてきました。しかし昨年(2023年)に見られた小型個体が成長したと思われる個体(18~20cm)の割合は現時点では多くなく、来遊の主体とはなっていません。

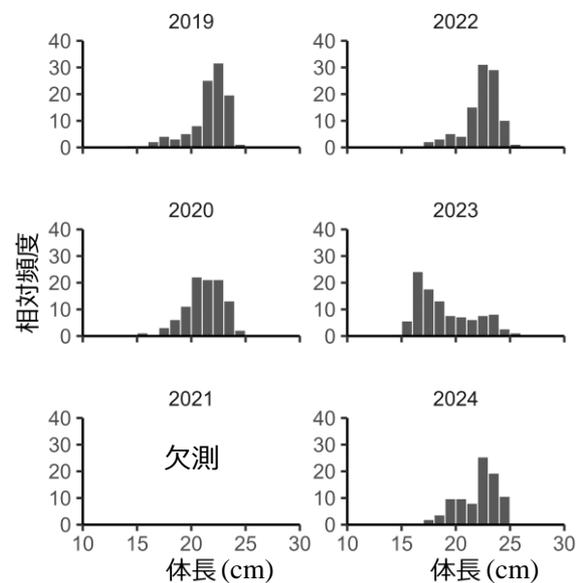


図1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の6月前半の体長組成.

## 海洋観測: 沿岸からオッター漁場・かけまわし漁場にかけて昨年並みの水温

宗谷海峡東方海域において6月19~21日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図2)。観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域での水温は10~14℃前後と昨年並みで、水温が低めだった2022年に比べて4℃前後高くなっています。また、オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域でも、底層水温は6℃前後と昨年並みでした。ラインBでの沿岸域の水温は12℃前後、かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は6~11℃となっており、全体を通して一昨年よりも高く、昨年並みの水温となっています。

<sup>1)</sup> イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr et al., 2015)

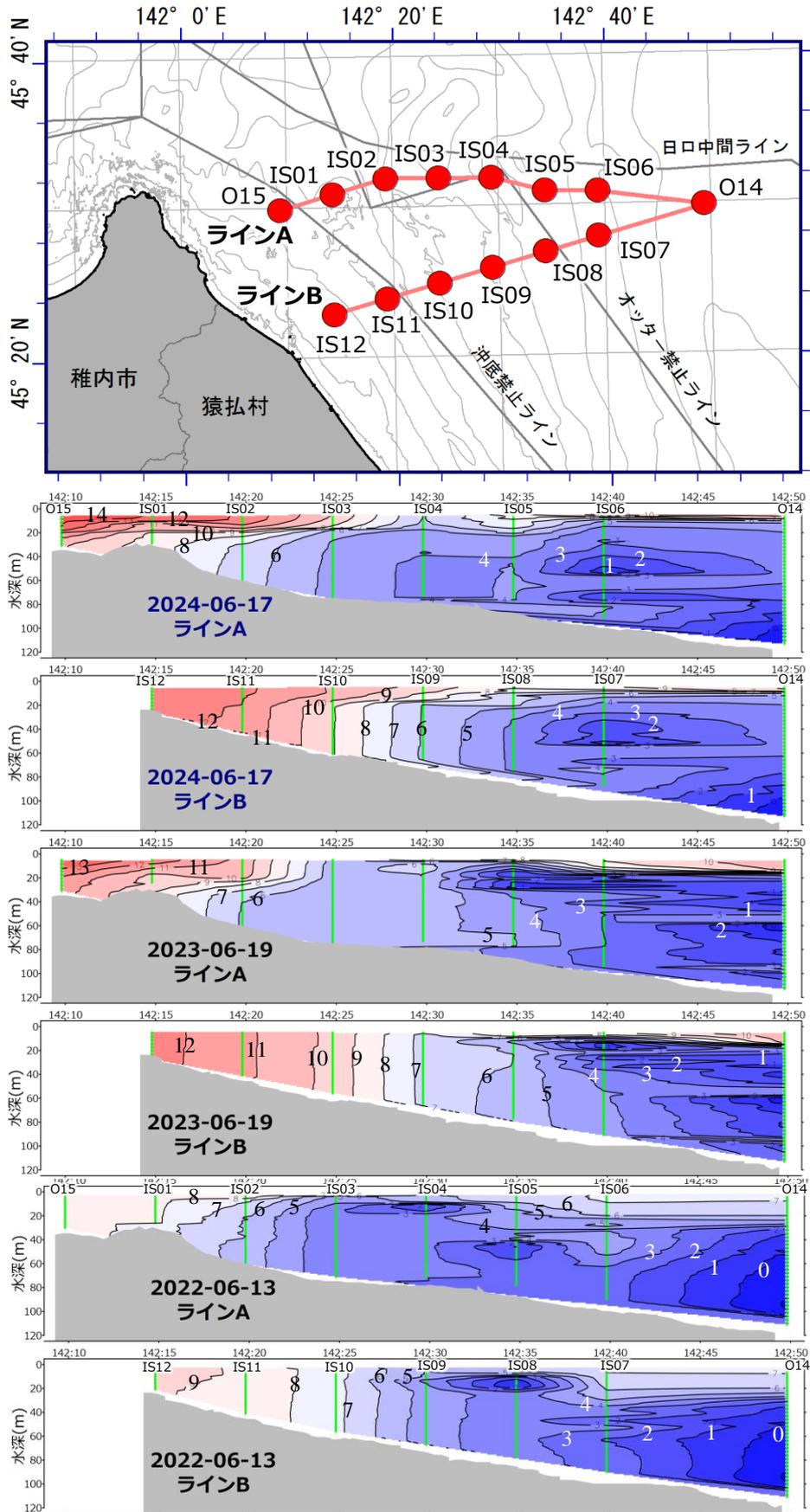


図2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

### 魚探観測：イカナゴ類と見られる魚群反応は確認できず(図 3)

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました。ライン A では水深 75m 付近に、ライン B においては水深 30~70 m 付近でイカナゴ類とよく似た形状の魚群反応を複数確認しました。しかし周波数毎の反応の強さを見ると、いずれの魚群も低周波 (38 kHz) の反応が高周波 (120 kHz) よりも強く、イカナゴ類とは別の魚群の反応ではないかと考えられます。すなわち、今回の調査ではイカナゴ類とみられる魚群反応は確認できませんでした。

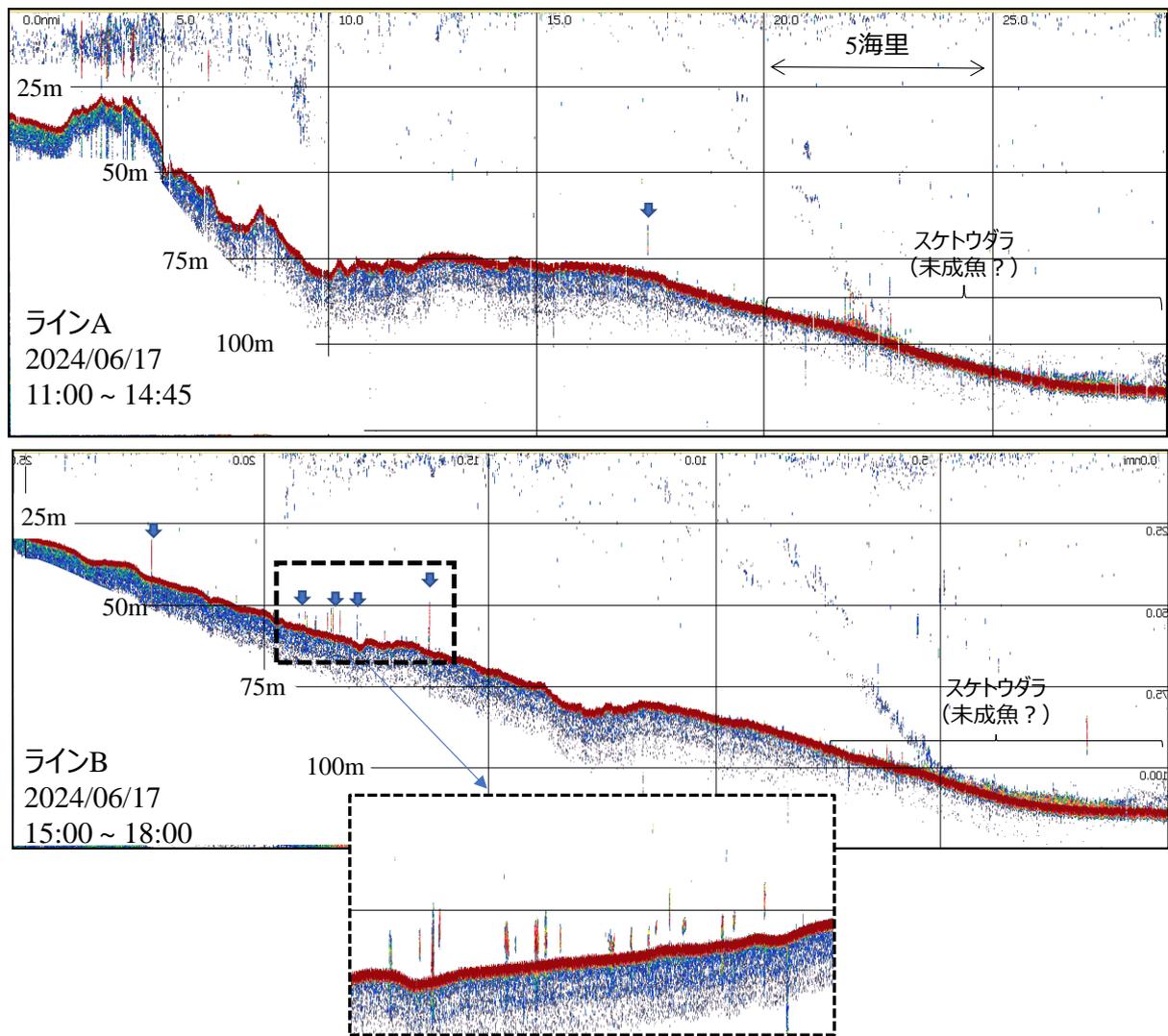


図 3. 観測ライン A~B における魚探反応(120kHz). 下図は上図中黒点線枠内の拡大図. 図中の青矢印はイカナゴ類と反応の形状はよく似るが低周波の反応が強い魚群反応を示す。

注：今回から試験的に低周波 (38 kHz) と高周波 (120kHz) の差を用いた魚群判別を行っています。